

千葉県

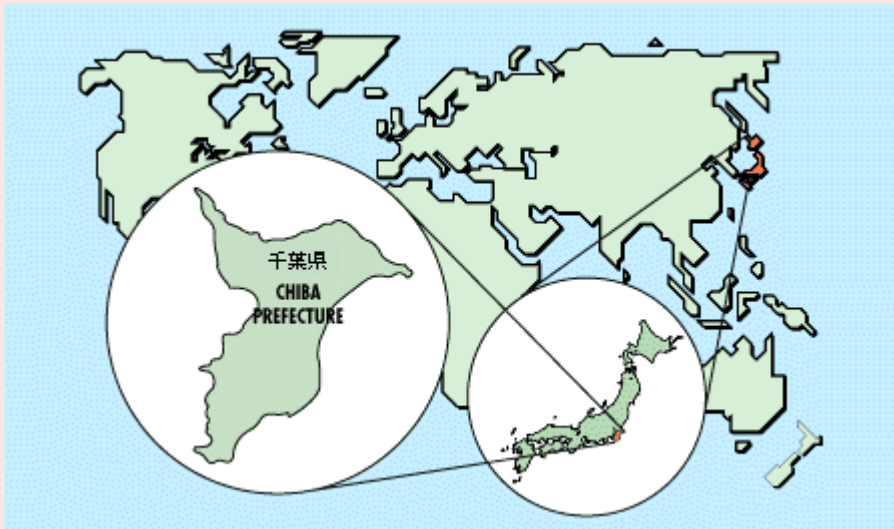
精神障害者地域移行支援について

千葉県では、保健所圏域毎に医療・福祉・当事者・行政等の構成員による精神障害者地域移行支援協議会を開催しています。関係者同士、連携を図り、地域の資源に関する協議や研修、事例検討等を行っています。

その他、高齢入院患者地域支援事業や遠隔地退院支援事業を実施しています。また、平成27年度中に精神障害者地域移行・地域定着協力病院の認定事業をスタートする予定です。

1 県の基礎情報

千葉県



取組内容

【人材育成の取り組み】

- 精神保健福祉センターにおいて人材育成のための研修を実施（精神保健社全般）

【精神障害者の地域移行の取り組み】

- 精神障害者地域移行支援協議会
- 高齢入院患者地域支援事業
- 遠隔地退院支援事業
- （予定）精神障害者地域移行・地域定着協力認定事業 他

基本情報

障害保健福祉圏域数	15圏域 ①
人口	5,231,653人 ②
精神科病院の数	43病院 ③
精神科病床数	11,199床 ④
入院精神障害者数	3か月未満：1,581人（16%） ⑤
	3か月以上1年未満：1,310人（13%） ⑥
	1年以上：7,218人（71%） ⑦
退院率	入院後3か月時点：56.9% ⑧
	入院後1年時点：87.3% ⑨
相談支援事業所数	一般相談事業所数：126 ⑩
	特定相談事業所数：362 ⑪
障害福祉サービスの利用状況	地域移行支援サービス：26人 ⑫
	地域定着支援サービス：180人 ⑬
保健所	15カ所（うち2箇所は市保健所） ⑭
千葉県総合支援協議会	精神障害者地域移行推進専門部会（活動頻度）：3回程度/年 ⑮
地方精神保健福祉審議会	最終開催は平成24年⑯

※①～④、⑭～⑯はH27年4月時点、⑤～⑨はH24年6月時点、

⑩・⑪はH28年1月時点、⑫・⑬はH27年11月時点。

※⑤～⑬は千葉市を含む。

2 都道府県としての精神障害者の地域移行推進のための人材育成の取り組みの経緯

- 平成26年度、平成27年度ともに、地域移行支援協議会の一環として研修会などを実施。内容は以下のとおり。

ピア活動について

他圏域の取組について

法的支援について

災害時支援について

福祉サービスについて（対象は病院職員で、制度の説明や福祉施設見学会を実施）

病院内の地域移行に関する取組について（対象は福祉施設の職員）

- 中核的人材育成については、現在検討中。

3 都道府県としての精神障害者の地域移行の取り組みの経緯

・精神障害者地域移行支援協議会の開催

平成16年度に船橋圏域で開始。その後、圏域を徐々に増やし、平成24年度には県内全ての圏域（千葉市を除く）で実施。運営は指定一般相談支援事業者等に委託。

なお、圏域内の総合調整役として、平成24年度までは地域体制整備コーディネーターを、平成25年度からは圏域連携コーディネーターを配置している。

・高齢入院患者地域支援事業

平成25年10月から実施。精神科病院に入院している、概ね60歳以上の高齢入院患者を対象に、病院内の医師、看護師、精神保健福祉士等の多職種と地域の関係者がチームとなり、退院に向けた支援を実施。県内の精神科病院に委託。

・遠隔地退院支援事業

平成26年度から開始。生活していた場所から遠く離れた場所（遠隔地）で、長期入院を余儀なくされた者のうち、以前生活していた地域へ退院を希望している者を、退院後の生活を想定した退院支援を行う。

・（予定）精神障害者地域移行・地域定着協力病院の認定

精神障害者の地域移行・地域定着の理解と促進を図るため、一定の要件を満たす精神科病院を、精神科病院地域移行・地域定着協力病院として認定する。

3-1 船橋圏域の取組①



《船橋圏域地域移行支援協議会の概要》

- ❖ 平成16年 精神障害者退院促進支援事業モデル地区として事業開始
- ❖ 地域移行支援協議会 年6回実施
- ❖ 委員数 19名
〔病院（4か所）、市保健所、市障害福祉課・生活支援課、圏域コーディネーター事業所、県障害福祉課、県精神保健福祉センター〕
- ❖ 協議会における協議事項
 - ① 地域移行支援事業利用者の状況報告
 - ② 事例検討
 - ③ 地域交流・啓発事業の検討及び実施
 - ④ 病院職員対象の地域施設見学会の実施及び検討
 - ⑤ 情報交換

自慢の取組み!!
『オアシスカフェ』

※以前は、病院職員向けの研修（事業説明等）を実施していたが現在では実施していない。

3-2 船橋圏域の取組①

うちの自慢はココ！

地域交流・普及啓発事業『オアシスカフェ』オアシスカフェとは？

- ❖平成25年度に始められた取組み。
- ❖「オアシス」とは船橋圏域の地域移行支援事業の圏域連携コーディネーターが所属する事業所の名称。
- ❖『ワールドカフェ技法』を用いた支援者ミーティングと入院患者を対象にした交流会の2種類を実施

①オアシスカフェ in ふなばしー（支援者ミーティング）

- ・情報交換やネットワークづくりが目的
 - ・行政、障害福祉サービス事業所、医療機関職員等が対象
- ⇒参加者から「普段なかなか関わることのできない機関と意見交換ができる」等の声



②市内精神科病院へ出向いてのオアシスカフェ（入院患者とオアシスのピアメンバーとの交流会）

- ・入院患者に地域生活へ興味を持ってもらい地域移行の促進につなげることが目的
- ・地域生活の様子が分かるスライド上映、福祉サービスの紹介、退院後の生活をテーマにしたゲーム形式のトーク
- ・お茶やお菓子も提供し、気軽に参加できる雰囲気。

⇒「コーヒーが飲めるから」という理由で参加する方もいるが、地域移行への「種まき活動」と考える。オアシスカフェ実施後に参加者から問合せがあったり、退院後にオアシスを利用して地域生活を送っている方も。病院職員からは「普段病棟では見られない表情も見られた」との声もあった。オアシスのピアメンバーにとっても自分の経験を活かす機会となっている。

4 都道府県としての来年度への抱負

地域移行推進のための人材育成について

- 中核的人材育成に関する研修を企画し、実施する。
- 精神障害者地域移行支援協議会において、地域の事情に応じ、知識の取得又はスキル向上等のため、研修を実施する。

市町村支援について

- 精神障害者地域移行支援協議会への参加を促し、関係機関との関係づくりや、精神障害者の地域移行に関する理解の促進を図る。
- ケースに応じて、地域生活における処遇等について保健所との連携を図る。

地域移行の推進について

- 精神障害者地域移行・地域定着協力病院の認定事業を実施し、地域移行を促進するとともに、理解の促進を図る。
- 各圏域の精神障害者地域移行支援協議会等の取組状況を資料化及び共有し、今後の取組に反映させる。

5 次年度の戦略（人材育成に関するもの）

長期目標

人材育成に関する検討と、研修を継続して実施する。

短期（次年度）目標

障害福祉課は研修について検討し、企画する。

目標達成のためのスケジュール（いつ、だれが、何を、どのように実施するか）

時期		
年度中	障害福祉課	研修の内容や進め方等について検討する。 企画し、実施できるものは年度中に実施する。